

1 庄内用水頭首工 (昭和29年完成)

庄内川の水位を堰き上げて、取水しやすくする施設。

戦後の食糧危機の時、庄内用水（堀川）へ安定した取水をして少しでも収穫が増えるように造られた。今も堀川と庄内用水に水を送るため活躍している。



2 庄内用水元枳樋門 (明治43年完成)

取水のため、庄内川の堤防に開けられている取入口。堀川はここから始まる。明治の末に造られ、永年の庄内川の増水にも耐えてきたが、昭和61年に新しい樋門が川側に造られ、今はひっそりと堤防の下に保存されている。納屋橋と同じ栗田組による施工。都市景観重要建築物等に指定された。



3 瀬古の井戸 (昭和23年掘削)

直径6mの大井戸。戦後食糧危機のさなかの昭和22年は大変な旱魃になった。少しでも多くの水を庄内用水（堀川）へ流すため翌年に掘られた。平成13年から、黒川の環境維持のため庄内川から取水できない時にこの井戸の水を放流している。(写真は平成13年頃撮影)



4 矢田川伏越 (三階橋の由来)

赤線で示す部分の川底に伏越があり、堀川は矢田川の川の下を流れている。

ここに初めて伏越ができたのは、延宝4年(1676)のことだ。御用水を流すために造られ木製であった。明治半ばから大正にかけて犬山と名古屋を結ぶ船が、伏越の中を行き来したこともあるが、今は造り替えられて中には入ることができない。近くの三階橋は、伏越が1階、矢田川が2階、橋は3階にあたるので「三階橋」と名付けられた。

